



ライオンズクラブ国際協会
336 - A地区 2 R - 4 Z

2011年 **9** 月号

No. 412



9月第2例会を西條神社にて開催

SAIJO LIONS CLUB SAIJO LIONS CLUB SAIJO LIONS CLUB

2011—2012

国際会長	ウィンクン・タム
モットー	「 WE SERVE(われわれは奉仕する) 」
ハイライト	「 I Believe ~ 信じる ~ 」
336 - A地区ガバナー	菅 武 廣
スローガン	「 豊かな 明るい未来に We Serve 」
キーワード	「 愛 」
336 - A地区2RC	田 村 征 夫
キーワード	「 本物志向 」で
西条ライオンズクラブ会長	明 比 紳 一 郎
スローガン	「 はばたけ 未来へ 感謝を込めて WE SERVE 」
キーワード	「 新たなる一歩 」

東日本大震災被災地への物資救援活動と視察報告

L . 明比昭治

【実施日程】 平成 23 年 5 月 4 日～5 月 6 日

【行動概要】

5 月 4 日 松山空港 9:40 発 伊丹空港乗換え 仙台空港到着 13:00

目の前は一面ガレキやパシャコ（パシャコ）の車がゴロゴロ、住宅など見るも無残な状況。海岸の防波堤も全体に移動するほど押し流され、防風林もなぎ倒されている。



仙台空港前（岩沼市）



防波堤も全体が移動した。

5 月 5 日 町長が役場の放送塔の柱にかきついて助かった報道でもよく知られる、南三陸町の「佐藤 仁」町長を訪問。天皇陛下も御慰問に訪れられた小学校から、町の全景を見せていただき、当時の様子を小学校の先生から涙ながらに聞かされたが、まさに眼下は地獄絵図の惨状がまだ残ったままだ。



J R 気仙沼線もズタズタに



30M以上の高台まで押し寄せ壊滅状態

5 月 6 日 福島第 1 原子力発電所の事故により、全町に避難指示が出て住民が避難、役場も仮庁舎で非難している浪江町は、支援物資としてマスクを届けるために訪問した。



陸上に押し上げられた 400t の漁船（気仙沼）



二本松市の庁舎が、浪江町の仮庁舎となっている。

【今回の体験よりの私の所感】

こんな混乱状況の渦中にある方々に、性急に「頑張れ」「何とかせよ」といっても無理がある。テレビが放映されていても上の空、誰も頭に入って見ている人は居ないとも聞かされた。心そこにあらず何をやる気力にも欠けているという。我々も気長く見守る必要があるのだろう。彼らには決して非は無いのだ。何をしてあげれば、彼らの心を癒してあげたり、勇気付けられるのか？良く解らないが、周りの者が責任を持って、心のこもった支援をしなければならぬことなのだとすることだけは、明らかな事だ。また、支援の方策についても、状況が色々変わっておりタイムリーなニーズに応えられる配慮が必要のようだ。これが良からうと思って届けても、もう必要が無くなっていて、逆に善意の押し付けになる事にもなりかねない。よく状況を把握し、被災者の本音を聞いての対応が大事だろう。一步離れたところでは、この現実が伝わりにくいものだ。現場での体験を今後の教訓にしたい。

クラブ事務局が移転しました



この度、西条ライオンズクラブ事務局が永年慣れ親しんだ西条商工会館から、西条国際ホテル1Fへ移転しました。西条商工会館には34年もの年月、事務局を置き、クラブの歴史と共に歩んでまいりましたが、昨年度クラブ結成50周年も無事終えたことがきっかけになったわけでもありませんが今回の「お引越し」となりました。西条国際ホテルは月2回の例会会場でもありますし、また他の会合等で足を運ぶ機会もあるかと思えます。新しく変身(リニューアル)した事務局を今後とも宜しくお願いします。

【 新住所 】〒793-0030 愛媛県西条市大町 771 番 1 西条国際ホテル1F

T E L (0897) 56 - 3980

/ F A X (0897) 56 - 9251

変更ありません



旧事務局の様子



引越し当日



悪天候の中皆で引越し作業

優雅な音楽が流れ ~
ゆったりとした気分で委員会
等の会合ができそうな雰囲気
になりました。



ライオンズクラブ国際協会 336-A地区2R4Z

地区ガバナー公式訪問出席報告

幹事 植木光夫

9月25日(日) 今治地域地場産業振興センターにて地区ガバナー公式訪問が開催されました。明比会長、加藤会員委員長、寺川ライオンテーマ(会計代理)、伊藤テールツイスター(第1副会長代理)、私の6人で参加してまいりました。ガバナーをはじめ、キャビネット役員の方々も、今回の公式訪問で9Rの全ての訪問が終わるということもあってか、表情からは安堵感のようなものが感じられました。東日本大震災への支援体制について質問をしていましたが、各地区でも思案・検討をしているとのことで、3年間くらいのスパンで考え実施していくとの回答でした。我がクラブでも昨年度から、引き継いでいる課題ではありますが、いろいろな方面からの助言等もいただきながら、わずかながらでも支援活動を行っていききたいと思います。



今年の夏の家族会「大歩危祖谷へ～涼を求めて～」は、数々の思い出と共に無事終了しましたが、この計画が持ち上がった時、以前行ったことを思い出しました。早速、本棚を探したところ、見つけました。1987年の8月号を。そう、あれから24年も経ったのです。当時、私は広報委員会の一員で、第2計画委員長の塩崎己年夫に現行の依頼をしていました。それに依りますと、8月9日(日)メンバー及び家族総勢40名の参加で、大歩危秘境へ出発とあります。船下りを最大のメインにしておりましたが、前夜の大雨で川が増水し、中止となっています。かずら橋周辺も鄙びていて、途中から道が狭くなっているのでマイクロバスに分乗して約20分で到着とあります。まさに今昔の感です。昼食後、丸亀2代目藩主によって築庭された万象園にて、庭園、美術館、陶芸館等を見学、次の目的地、瀬戸大橋の見学に出発、それは8月12日に最後のボルト締めを控えた、雄大で、スケールの大きな架橋でした。その時の記念写真を見るにつけ、皆さんのお若いこと。この年の会報誌は特に充実していたと思います。

当時の会報誌(1987年8月号)に掲載された写真



スナック、ザ・ライオンズ?



瀬戸大橋をバックに一同ハイ、チーズ

編集長の篠原秀幸先生の指導が大きかったからです。新任委員長の、「クラブの原点、委員会」をテーマにした紙上対談をはじめ、平井辰夫先生の絵と文に依る「ふるさとの民話」シリーズや、メンバーの事業所を訪問しての「いんたびゅう」、そして出席委員会主催の抽選で一等賞になった方に書いていただく「ラッキー随筆」など、盛り沢山の企画でした。中でも、今読み返しても全く色褪せないラッキー随筆を紹介します。題して「私の人生観」、筆者は白石基司先生です。

今更しかめつらしく、自分の人生観を振り返ってみましても、遠いかすみの彼方の若い日に、疑精神や、批判精神にふりまわされた、おぼろげな記憶が思い出される以外に、これと言って確たるものが、即座には浮かんできません。これは人生観なるものが年代に応じて、流動的に変化するからではないでしょうか。過去に抱いた様々な人生観を、ひとつひとつ羅列してみても仕様がありませんが、唯一つ言える事は、人間はどんな場合でも、又、どんなに年をとっても、好奇心を失ってはならないということです。これが人生観と言えるかどうかは別として、人間が好奇心を失わない限り、挫折感に打ちひしがれて落ち込んだりするようなことは先ずあり得ないだろうと思われます。言いかえますと、好奇心は、人間の生活力、生命力の原動力と言えましよう。

ライオンズクラブの皆さん、何かにつけ旺盛な好奇心をいつまでも持ち続けて下さい。

皆さんが澁刺とした若さを、今後とも失わないために。

思えば白石先生の言動は、常に新鮮でしたし、時として私たちにカツを入れて下さいました。会報誌の思い出は以上ですが、終わりに、ペンネーム「秋彦」で書かれた、篠原先生の「あとがき」は、いつも説得力のある読ませる文章でしめくくって下さいましたことを、付け加えておきます。

観月例会



ライオン・テーマー 寺川治美

9月第2例会を西條神社・参集殿にて9月27日(火)総数42名で19時より行いました。移動例会ですので準備は少し大変でしたが、明比会長の拘りで満月と月見団子とススキの手配はどうしても必要との事で準備に奔走しましたが、苦勞のかいあって、この演出は気に入っていただけたのでしょうか。

短縮例会後、料理はこの時期ならではの「いも炊き」で、和気あいあいと鍋を囲み、懇親を深めました。少々フライング気味に宴が始まりましたが。出し物は、秋の観月会に相応しい「笛音の会」主宰・竹内直子様篠笛と琴の演奏を行ない、中秋に澄み渡る篠笛と琴の演奏が参集殿に鳴り渡りました。中には前回の西条石鎚ライオンズクラブとの合同例会のフラダンスの余韻が残っている方も居られたかも解りません。又、「月」を御題に委員会対抗で脳の活性化を行っていただくという趣向で、川柳大会を行いました。6選の優秀な川柳が出され、選ばれた川柳は・・・。

「ウサギより バニーガールの 月のかけ」如何でしょうか、この作品で良いのでしょうか・・・？また、例会を楽しくする趣向を考えて行きたいと思っておりますので、皆様宜しく御協力お願い致します。



日本の秋、風情のある観月例会を楽しんでいただけましたか？



篠笛と琴の艶のある音色が心の奥まで染み入るようでした。素晴らしい演奏をありがとうございました。



会員委員会に川柳大会の審査をお願いし、大いに盛り上がった川柳大会となりました。

妻実家俺の天下だ 三月間

青少年指導委員会

マニフェスト先が見えない 暗の月

出席・計画委員会

名月も団子も丸く 気も丸く

PR・広報委員会

地表の傷を癒せと祈る 中秋の月

環境保全・保健福祉委員会

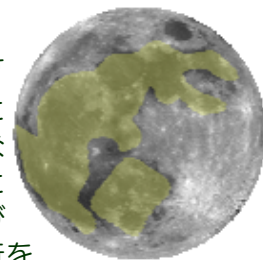
月よりの使者とは云えぬ 宇宙の塵

YE・国際協調委員会

月の兎（月に兎がいる）という伝承にまつわる伝説

猿、狐、兎の3匹が、力尽きて倒れている老人に出逢った。3匹は老人を助けようと考えた。猿は木の実を集め、狐は川から魚を捕り、それぞれ老人に食料として与えた。しかし兎だけは、どんなに苦勞しても何も採ってることが出来なかった。自分の非力さを嘆いた兎は、何とか老人を助けたいと考えた挙句、猿と狐に頼んで火を焚いてもらい、自らの身を食料として捧げるべく、火の中へ飛び込んだ。その姿を見た老人は、帝釈天としての正体を現し、兎の捨て身の慈悲行を後世まで伝えるため、兎を月へと昇らせた。つきに見える兎の姿の周囲に煙状の影が見えるのは、兎が自らの身を焼いた際の煙だという。

この伝説は、仏教説話『シャータカ』を発端とし、『今昔物語集』などを始めとして多く語られている。



編集後記



『がんばろう 日本』

我が国は厳しい経済不況に加え、大災害や福島第1原発事故で、苦境にあるが、1日も早い復旧・復興と国力回復のため、みんなで力を合わせて頑張ろう。

人生だっていい時もあれば、苦しい時もある、病魔にも襲われる。何も無理をすることは無いが怠慢はいけない。逃げることはもっといけない。いずれにしても、お天道様と自然に、無理に逆らわず学ぼう。忘れず彼岸花がしっかりと咲いていた。

PR・広報委員 明比昭治

発行所 ライオンズクラブ国際協会 336A地区 2R 4 Z
西条ライオンズクラブ
事務局 〒793-0030
西条市大町 771 番 1 ← 移転しました
西条国際ホテル内 1 F
TEL (0897) 56-3980
FAX (0897) 56-9251
E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp

発行者 会長 明比紳一郎
幹事 植木光夫
PR・広報委員長 土居恵三
編集委員 今岡正士 ・ 明比昭治
仁後真貴雄 ・ 盛實正人
瀬川大秀 ・ 伊藤隆治
例会日 第2・第4火曜日
例会場 西条国際ホテル
印刷 西条ライオンズクラブ事務局